

沖縄県名護市辺野古の 新基地建設工事の即刻中止を求めます

政府は2018年12月14日、沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設のための沿岸部への土砂投入を強行しました。政府によるこの暴挙に、万感の怒りを込めて抗議します。

2018年9月の沖縄県知事選挙で、名護市辺野古への新基地建設反対を訴えた玉城デニー氏が大幅で圧勝したことからも、沖縄県民の願いが「辺野古新基地建設ノー」であることは疑いようがありません。それなのに政府は、県知事選直後の2018年11月1日から新基地建設工事を再開。さらに、玉城知事はじめ多くの県民が反対の声をあげるなか、埋め立てのための土砂を海に投入しました。

2018年8月8日に急逝された翁長雄志前沖縄県知事の遺志を継ぎ、沖縄県は辺野古沿岸部の埋め立て承認を撤回しました。新基地建設のための工事は、法的根拠を失っています。今回の土砂投入も違法であり、とうてい民主主義国家のやることではありません。対話による解決を求めてきた玉城知事の誠意や多くの県民の願いを踏みにじる暴挙であり、絶対に許すことはできません。

辺野古では2018年12月14日以降、多くの県民や全国の人々が「土砂投入許さない」「辺野古新基地建設反対」と抗議をつづけています。私たちは、辺野古での新基地建設反対のたたかいへの連帯を表明すると同時に、国民主権や地方自治、沖縄県民の基本的な人権を蹂躪する政府に対して、辺野古への土砂投入と新基地建設工事の即時中止を強く求めます。

2018年12月20日

日本機関紙協会埼玉県本部

理事長 金子勝